

第 36 号

発行者
青少年育成秋田市民会議
事務局
秋田市子ども未来センター内
少年指導センター

〒010-8506
秋田市東通仲町4番1号
TEL 018-884-3869
FAX 018-887-5335

青少年やどめ



「わたしの主張2018」県中央地区予選大会 平成30年9月3日 下北手中学校、地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

【指導者自らの生き方】 を論じられた



青少年育成秋田市民会議

会長 遠田 順夫

「地域力」は『子ども・若者』の参画型地域活動であり、行政をも巻き込み、活動波及を図ることが理想とされる。

近年、地域のコミュニティは薄れ、その真価が問われているが、情熱があり、客観的な視点を持ち、情報の授受・発信、長期展望を備え、また、自然景観、伝統文化、多様な人材を要するが、単純な総和ではない。

福留聖徳大名誉教授には、指導者自らの生き方を諭された。「指導は根気強さ、寛容の精神を持ち、待つこと。関係者の智慧や工夫を集結して初めて指導者になる。」結局は『人』であり、自らも楽しめ、輪を広げる素質を持つ人材が地域に根付いてほしい。とのこと。感服！そして肝に銘じた一言でした。（全国青少年育成アドバイザー講習会）

私が主宰する『桜たんけん塾』の「想いで発表会」の準備をしながら、基本的な視点を省みた。

子どもたちは、未知の体験等に興味・関心を示し、「自ら学び、考える力」を

提案してくる。「日本一・世界一」への憧れ、「地球の誕生や人間の存在」「戦争と平和」「自然の生き物と絶滅危惧」等々。内心、指導者の人格、知識が問われる怖い存在に陥ることがしばしばである。さまざまな体験活動や、異世代、生き物とのふれあいを基本に子どもたちが心身ともに、たくましく成長し、協調性、ボランティア精神等の醸成を目指したいものである。

過日、塾生OB（中一）にキャンプのお手伝い役をお願いした時の感想文に「子どもたちのサポートは、予想以上に心配りし、体力が要り、大変でした。今まで僕たちが楽しめていたのは大人の方々が気遣ってくれていたと分かり、感謝の気持ちがあるのがすごく大きくなりました。」とあった。4年間の塾生経験を経て自己分析してくれた。うれしい限りである。

自然の中を飛び回り、子どもたちの笑顔を引き出し、感想をきっちり整理することは、子どもたちを事故や犯罪から未然に防ぐことにもつながっていると考えている。

